

連合福島2022「ふくしま労働シンポジウム」開催

～ 深みのある春闘の意義確認 ～

連合福島は、2月3日（木）13時30分から「ラコパふくしま」（福島市）で、111名の構成組織・地区連合、また経済団体や県議会議員参加も得ながら「2022ふくしま労働シンポジウム」を開催した。また、コロナ感染に配慮し、その予防策徹底と合わせ、ハイブリット方式とした。

冒頭、今野 泰会長は、「新型コロナウイルスが、オミクロン株が異常な速さで拡大しているなか、組合員やご家族の皆様が大変なご苦労・腐心されていることと思う。連合福島も、開催予定の元気アップコミュニケーション・春闘学習会などを

延期とさせて頂き、大変なご迷惑をおかけしている。何より春闘を前に、回復基調の景気へも影響が見られ、追い打ちをかけるインフレ要因による

原材料・原油の高騰が、生活用品を値上げし、家計の負担も増しているなか、2022春闘が事実上スタートした。本日は、具体的なデータに基づき、経済情勢や国の財政課題なども理解頂きながら、春闘へ反映して頂きたい。そして、積極賃上げによる家計支出の増加・内需拡大を図る必要性を理解し、国家予算・政府予算に対する関心を深め、政治への参画意識も高め、2022春闘が深みのあるものになるよう祈念する」と挨拶した。シンポジウムでは、東北財務局 福島財務事務所 小山課長から、「コロナ禍における福島県内の経済状況と今後の予測について」の講演を受けた。丁寧に講演をいただいた小山課長に紙面を借りて、御礼を申し上げます。



講演する東北財務局
福島事務所 小山課長



主催者を代表して挨拶する
今野 泰 連合福島会長

「福島県最低賃金引き上げと早期発効の意見書提出の請願書」 2月定例県議会提出を要請

連合福島は、2月7日（月）、福島県議会県民連合議員会に対し、「福島県最低賃金引き上げと早期発効の意見書提出の請願書」を2月定例県議会に提出するよう要請を行った。

今野会長より「オミクロン株の出現により、県内では生産調整に入っている企業もあるなど状況は厳しさを増している。加えて、物価上昇で家計負担は増しており、低所得者ほど影響を受けている。最低賃金は年金や公的扶助の水準にも影響することから、引き上げと早期発効について力添えをいただきたい。」と要請した。県民連合の瓜生信一郎会長からは、「県民連合としても、最低賃金1,000円を目指すことを目標としている。要請のあった請願書は2月定例県議会に提出するとともに、労働政策については連合福島と協力しながら頑張っていきたい。」と連帯の考えが示された。



—今野会長より県民連合瓜生会長に要請—